



ほっこりタイム



「未来に向かって」

この季節～思い出深いのは、やはり卒業式です。

我が子の時には、その成長が嬉しく切なく、ただただ涙でしたが、主任児童委員として臨ませて頂いた折には、先生方が子どもたちの晴れの日を大切に祝うため、一生懸命準備して下さっている様子も拝見して、本当に有難く思いました。そして式当日の卒業証書授与の場面。子どもたち1人1人が壇上に上り、同級生や保護者さんを前に、それぞれ「夢」や「希望」や「決意」、「親や友達・周囲への感謝」を力強く語って証書を頂く姿を見て、胸がいっぱいに！ その凛々しさ、清々しさ、晴れやかさ。全ての子どもたちから美しい魂があふれ出て、見守る保護者さんや先生方からの、いっぱいのお愛に包まれて、会場全体が神聖な空間になったように感じ、心が洗われる思いでした。

今、学校では、子どもたちは次のステップに向けて、真剣に1年間の総まとめに取り組んでいることでしょう。この子どもたちみんなが幸せに、夢や希望を胸に、未来に向かって歩いて欲しいと心から願わずにいられません。

無関心で子どもを捨て置いたり、足りないところばかり指摘して萎縮させたり、酷い言葉で心をズタズタにしたり、親の願いや心配を押し付けすぎて苦しくさせたり、大切だからと困難を肩代わりして成長の機会を奪ったり…気を付けたいです！

私たち大人は、子どもを温かく見守りサポートしつつ、自分の人生を全力で生きることで子どもたちにエールを送りたいなあと思うのです。

夢や希望を胸に！晴れやかに！



コラムニスト 静岡県人づくり推進員 兼 親業訓練インストラクター 尾駒 眞理

「わたしの主張 2024」富士宮大会で最優秀賞に選ばれました富士宮第一中学校 3年後藤 藤生さんの作品を紹介します。

「わたしの主張」は日常生活の中で考えていること、社会や世界に向けた意見、将来の夢や希望などを周囲の人々や社会に対してメッセージを伝えることで、社会の一員としての自覚を高めることを目的として開催しています。

読者の皆様におかれましては、作品をとおして、中学生の頼もしい姿を感じ取っていただくとともに、青少年の健全育成への理解と関心を深める契機となれば幸いです。

「情報化社会の今だからこそ」 富士宮第一中学校 後藤 藤生

「声かけても大丈夫だよな？」

毎朝の通学路で僕はびっくりするほど声をかけられた。僕は学校まで自転車で通っている辻々に緑のジャケットをきたおじさんが立っている。小学校の時は歩いて通っていたが、その時から変わらない光景だ。毎朝僕はおじさん達と挨拶をする。

「おはようございます！」

「おはよう。おっ今日はプールかな？」

「お、何か見つけた？おーカマキリかーすごいなー」

なーんにもすごくない、特別じゃないことでもほめてくれる。僕はおじさん達と話すことがとても楽しい。いつも話しかけてくれるおじさんがある日ことをいった。だから僕の驚きは相当なものがあった。おじさんに聞くとある保護者から、

「うちの子に声をかけないでください」

と言われたらしい。とても沈み込んでいたおじさんを見て僕は心底おかしいと感じた。最近本当に人間関係がきはくた。隣に住む人がどんな人か知らないなんてあたり前だし、隣の人と会っても声をかけのだってふしぎではない。昔の日本は違ってたと祖母が話していた。昔は家と家の距離が近く、隣の家でご飯も食べさせてもらったり、なんて日常茶飯事で他人の子も自分の子もなく悪事を働いたら怒られ、またほめられていたと。子供は親だけでなく、多くの大人から目を向けられて様々な事を学ぶことができたのだ。時代が変わるのはあたり前で、何十年も前と同じ事がないことはわかる。しかし、人対人に何の違いがあるのだろうか。根本的に何も変わりはないはずだ。では何が変わったのだろうか。核家族化？それもあるだろ

う。インターネットの普及？それもあるだろう。ハイテク化？それもあるだろう。世の中のしくみすべてが単純な人対人の関係性に影響を及ぼしている。スーパーに行ってセルフレジを使用すれば人と会うことなく商品を買うことができる。インターネット通販でも、もちろんそうだ。とても便利だが、それにより人対人という機会を奪われている。正に負の連鎖である。人に会う気かも少ない中どんどん免疫が落ちていくのだ。確かに誰にも会わなければ、何も起こらない表面上は嫌な思いもしないシライラすることもない。だがそれゆえに誰かと会った時対処できない。声をかけられたら困る、悪い人だと思う、犯罪に巻き込まれる、という安易な考えに陥る。人は素晴らしいものだ。人間は一人では生きられない。互いに支えあい生きている。これは古来から決して変わらないことだ。実際アメリカのあるスーパーでは、セルフレジの廃止を決めた。利用客が減り、売上が落ちたというのだ。また、あるドイツのスーパーでは、話しかけてほしい人は札をつけるという取り組みをしている。人間は結局孤独では生きられない。便利さにまけ人間として必要なものが奪われていく現代社会に逆行するようだが、僕は今日も緑のおじさんに声をかける。この幸せなひとときを大事にしたいからだ。



令和7年1月16日（木）に行われた令和6年度 第2回富士宮市青少年指導員協議会全体研修会で作文の朗読をする後藤藤生さん（富士宮第一中学校 3年生）



わたしの主張2024富士宮大会 表彰式 1月16日（木）
会場：富士宮市役所 7階 特大会議室
最優秀賞 富士宮第一中学校 3年 後藤 藤生さん（左）
優秀賞 柚野中学校 2年 佐野 真里愛さん（中）
優秀賞 柚野中学校 2年 清 陽梨さん（右）
優秀賞 柚野中学校 3年 勝又 美有さん

こどもたちの安全を見守るために

—地域の青少年声かけ運動—

静岡県教育委員会が推進している「声かけ運動」は、地域の青少年に対し周りの大人が積極的に関わることにより、青少年の健やかな成長を支援しようという取組です。青少年にあたたかな声かけをして、あたたかな地域をつくっていきましょう！

富士宮市声かけ運動参加者数16630人（本年度申し込み人（R6. 2月現在））になります。申し込みは富士宮市社会教育課 家庭・青少年係で受け付けています。



この実行章をつけている方は
声かけ運動参加者です。

—青少年指導員の取り組み—

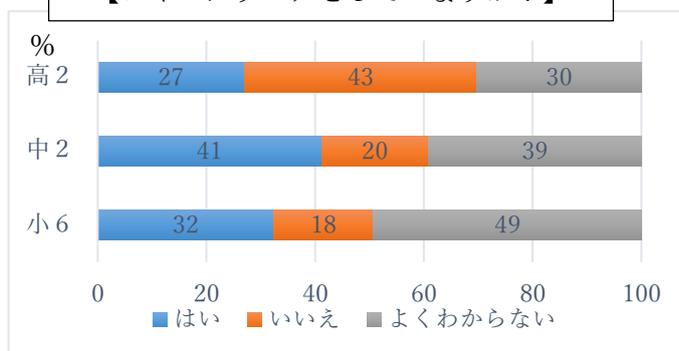


富士宮市には128名の青少年指導員がいます。地区ごと28グループに分かれ、毎月2回パトロールをしていただいております。他にも年2回の県内一斉補導や電車内補導、祭典補導もしてくださっています。多くの青少年指導員のみなさんが地域の見守りをしてくださっています。緑色のジャンパーが目印になります。今後ともよろしくお願いたします。

—有害情報からこどもを守る—

右のグラフは、本年度実施したインターネットに関する結果です。こどもはどんどん新しい知識を手に入れ、大人が思っている以上にできることがたくさんあります。フィルタリングと合わせて、ペアレンタルコントロールで有害情報からこどもたちを守りましょう！

【フィルタリングをしていますか？】



こども家庭庁・警察庁・消費者庁・総務省・法務省・文部科学省・経済産業省

みんな考えよう! 2025年1月発行

賢く・便利に・安全に!

今どきの
ネットの使い方

CHECK!

監修(専門) 五十嵐 上沼麻野(弁護士・一般社団法人安心ネットづくり促進協議会理事) 高花紀子(ネット教育アナリスト) 山崎篤文(全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会会長)

「今どきのネットの使い方」のリーフレットがこども家庭庁より発行されました。下記二次元コードよりリーフレットを閲覧・ダウンロードすることができます。

中学生・高校生からのアドバイスやルール作りのポイントなどが載っています。ぜひご一読いただきたいと思います。そして、お子様と一緒に大人の皆さまもネットの使い方を考え直す機会としていただきたいと思います。

URL : <https://www.cfa.go.jp/policies/youth-kankyuu/leaflet>

